

秋月地域だより

# なごみ

第13号

平成22年2月15日

発行 秋月地区コミュニティ推進協議会  
秋月地区社会福祉協議会  
秋月公民館 (28-5317)  
防災危機管理室 (22-8208)

秋月地区人口 6985人 世帯数 2857世帯 自治会数 12自治会 (平成20年3月)



## 「謹賀新年」

今年も地域の皆さんの福祉のために活動させて頂きます。

社会福祉協議会  
事務局長 大黒はつ子

地区の皆さんが仲良くなるように、楽しい行事を沢山行って行きたいと思えます。

コミュニティ推進協議会  
副会長 井上博美

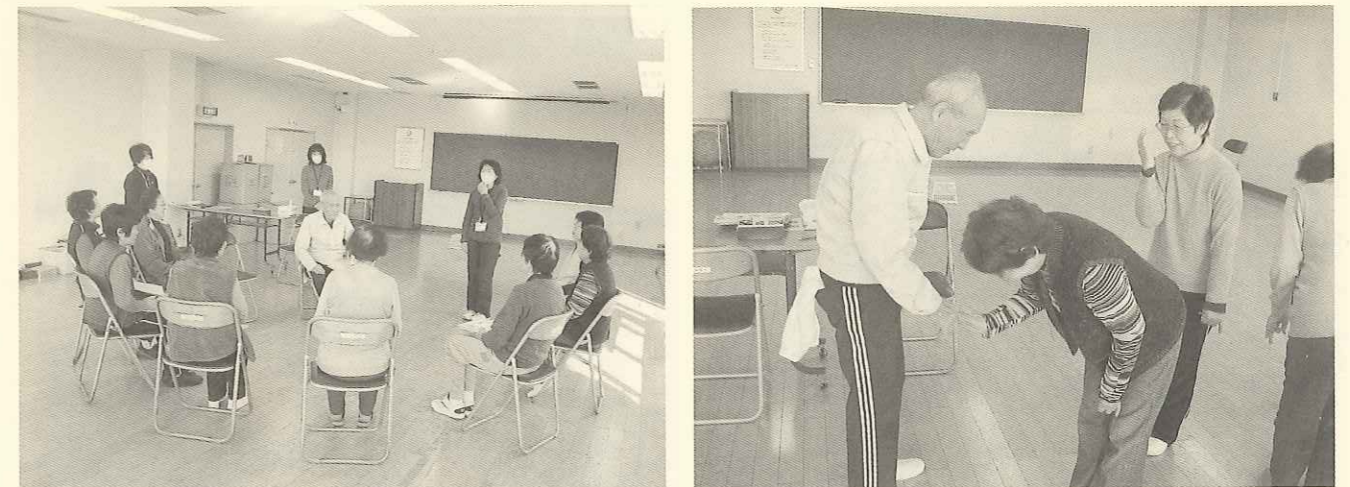
今年一年が良い年になりますよう、職員一同頑張りたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。

秋月公民館 職員一同



2010.1.13 子育てサロン

可愛い子どもさんとお母さんが一緒になって楽しみました。大雪の中を須々万からわざわざ来られた“読み聞かせの会”の方達の楽しいお話など、皆さん大いに喜んで帰られましたよ。子ども達の真剣な眼差しをご覧ください。毎月、プレーメンの音楽隊等、子ども達が喜ぶ催しをやっていきます。申し込みは公民館で行っていますので、奮ってご参加ください。



2010.1.14 足腰しゃっきり体操が始まりました。初対面の方と自己紹介です。体力測定があり、血圧や握力を図りました。住みなれた地域で、いつまでも元気ではつらつと暮らすための介護予防教室です。開校式から始めて、参加者が仲良くなるように、ふれあいゲームを楽しみました。初対面の方も、気軽に簡単な体操をして、みんな仲良くなりましたよ。終わったら、しゃきとして帰られました。仲間と一緒に、ずっと続けられると良いですね。基本的には毎週水曜日ですが、会場の都合で変更になることもあります。詳しくは公民館にお尋ねください。

## 公民館から

3月6日(土)と7日(日)に、恒例の秋月地区文化祭が行われます。

公民館の各教室や幼稚園児の発表・駐車場でのフリーマーケットやポン菓子・もちまきもあります。その他、コーヒーやうどんや抹茶もありますよ。そのための打ち合わせ会がありますが、各教室から参加してくださいね。近づいたらチラシをお配りします。公民館では、沢山の行事や教室や同好会を行っています。もっとやりたいことがあれば、気軽に相談してください。部屋の空いている限り、できるだけ行うようにします。







2009.12.26 門松作成  
公民館の玄関に立派な門松ができました。でも、年が明けるとすぐに壊しちゃうなんて、もったいないですね。



2009.12.26 お飾り作り講習会  
おじいちゃんおばあちゃんに教えてもらって、素晴らしいお飾りができましたよ。



2009.12.22 市長と語る会  
沢山の方が集まって、地区のいろいろな問題を市長にぶつけました。できるものはすぐにやるという返事でした。



2009.12.19 中央のサルビア会の主催で秋月の団塊塾も駅前清掃に参加しました。駅前がきれいになりました。中央の団塊の方と仲良くなりましたが、共に汗を流すのは、輪ができて気持ちが良いですね。



2009.12.18 団塊パソコン教室  
パソコンって、思うように動かないんですね。若い人にはへっちゃらでも、年をとるとなかなかね～でも頑張らなくっちゃ・・・



2009.12.22 社協もちの配布  
独居老人に、民協と福祉委員が配りました。150人くらいの方が首を長くして待ってられましたよ。餅がないと正月は迎えられませんからね。



2010.1.11 どんど焼き  
子ども会の主催で、盛大に秋月公園で行われました。正月のお飾りや書き初めを燃やして煙が高く上がると、健康で成績も上がるといわれています。インフルエンザの影響でうどん・ぜんざいはありませんでしたが、お餅の配布には沢山の方が並びましたよ。お餅を沢山食べて、これから1年間、健康でお過ごしください。



## 扇町県住子ども会 廃品回収量を4倍化

『廃品回収』と言えば子供会や自治会の活動資金づくり。かつては、どこもやっていたのですが、それも今は昔。人海作戦で1ヶ所に集めては回収業者の車に積み込む、不景気になれば売上単価は下がる、手間がかかる割には収益にならない等々の理由で、今日では実施しているのは秋月地区でもほんの数団体だけ。県住子供会も、これまで2ヶ月に1回(年6回)自治会清掃の後に、紙類・アルミ缶を各棟から1ヶ所に集めて業者の車に積み込む方法で実施してきました。しかし、改築に伴う入居制限と相まって子供の人数が急速に減少し、1ヶ所に集める方法は年々困難になる一方でした。他方で一昨年末からの不況の影響で廃品回収品の売値が2～4割まで大幅に下落する中、収益を確保するには回収量を大幅に増やす必要にも迫られていました。

そこで廃品回収業者(N社)と協議し、周南市では前例のない新しい回収方法をスタートさせました。子供会・自治会側は、新聞・雑誌・段ボールの回収BOXを団地内各所に常設し、住民が24時間・365日いつでも出せるようにする。業者側は、各BOXを月2回定期的に回収するというもの。つまり、これまでの1ヶ所に集める方法と比べ重量物を運ぶ労力を無くす一方で、ごみカレンダーで決められた日に出す市の回収方法を、サービス面でも圧倒する回収システムを作り上げることによって回収量の大幅な増加を図りました。

昨年8月からスタートし、年末までに10数個の回収BOXを団地内全域に設置完了。回収量は、回収BOXの設置数に比例して増加し、ついに年末には4倍化を達成しました。年間40t近いペースの回収量は、周南市内の廃品回収実施130団体の中で、自治会単位という狭い範囲のなかではダントツの1位。PTA・育友会など校区単位の広い範囲のなかでもトップ3。市からの報奨金を含めた収益金は、低迷が続く売上単価にもかかわらず年間20万円ペースへと飛躍しました。

子供会は、結成以来の歴史的課題である自治会からの助成金なしでもやっていける完全自立化を実現可能なものとしただけでなく、子供会費の値下げ・役員手当の支給・行事の増加等々を実行できるよ

うになりました。『廃品回収』はけっして時代遅れの活動ではない。問題はそのやり方にあるのでは。

昨年末から江の宮自治会が、今年2月から楠木2丁目子ども会も、1ヶ所に集めない新しい方法での廃品回収を実施し始めました。

### 今年は、秋月地区の廃品回収が熱い?

(文責：扇町県営住宅自治会 副会長 仲村博之)

